

議 題 平成22年度 第2回 学校協議会

開催日時 平成22年12月4日

開催場所 本校 応接室

出席者〔委員〕 入江 委員 柿原 委員 芝井 委員
立石 委員 永田 委員 宮坂 委員
〔学校〕 松本(校長) 秋元(教頭) 梅谷(事務長)
山本(首席・学習指導室長) 浅田(学年室長)

資 料 「数値で見る学校の歩み H15～H22」
「本校における教育活動の変遷」
「今年度の新たな取り組み」

1. 学校長挨拶

前回の協議会でご助言をいただいた「実践を後に残すこと」「地域に発信すること」を念頭に、本日の報告のテーマと内容を選定した。

2. 学校からの報告 ～ 本校の今後の方向性を探る ～

(1) 「数値で見る槻の木高等学校の歩み」(松本校長)

これまでの公立高校とは違った公立高校づくり、および、本校の全人的な教育を総括して今後の方向性を探りたい。

現状として、枚方地域からの志願者の増加
本校生徒の家庭学習時間の増加
遅刻数の減少、部活動加入率の上昇

質疑応答・協議

[宮坂委員] 家庭学習について。中だるみがなく、モチベーションが維持できている。特別な取組をしたのか。

[山本首席] 女子の学習時間が多い。中学からの学習への取り組み方や意欲に違いがあるのではないかと。本校の校風が女子に好まれている。男子は部活動への魅力で入学しているようだ。

[入江委員] 中学校では、生徒は塾に時間をとられて家庭学習の時間が少なくなっている。

高校ではどうか。

[秋元教頭] 通塾の数は年々増加している。表の数字は塾での学習時間を含めていない。週末課題の効果が考えられる。

[立石委員] 大学合格の男女率はどうか。

[山本首席] 理系国公立大学が入りやすい。その結果、男子に有利となる。3年生のこの時期は、男子の学力の方が伸びる傾向がある。

[立石委員] 遅刻数の少なさがすばらしい。何か特別な対応策はあるのか。

[秋元教頭] 大阪で一番遅刻数の少ない公立高校を標榜している。

[山本首席] 入学前から、始業時間の早い学校という意識が高いのではないか。

(2) 「今年度の新たな取組」(山本首席)

5月 P T A 総会にて「進路報告会」

7月 1・2年生を対象とした「京阪神大学志望者集会」

- ・受験科目のあり方に変更があるため
- ・受験のムードをつくるため

10月～11月 3年生を対象とした「早朝勉強会」

- ・毎朝7：40からの20分間 7週間で33回
- ・文章を短時間に読む訓練
- ・学年のムードが一新した
- ・120 / 272人が参加

11月 1・2年生を対象とした「語彙読解力検定」へのモニター参加

- ・文章力と読解力が他の科目の学習に大きな影響を及ぼすと考えている。
- ・332 / 480人が参加

1月 センターリサーチ後の「志望校検討会議」

- ・各予備校が発信する情報を共有するため
- ・センター試験を受験する生徒が増加したため

3月 P T A 主催の「初心者向け大学入試説明会」

- ・大学入試に関する初歩的知識の共有するため
- ・親が子どもとともに進路を考えることを可能とするため

9期生(新入生) のカリキュラム

- ・国語の増単位 (2年次4単位を5単位に)
- ・苦手教科選択群の設定

4月 新入生オリエンテーションの拡大・充実

- ・授業に入る前にしっかりとオリエンテーションを行うため
- ・教務と生徒指導関係に、授業、家庭学習、自習室、図書室を追加

3年間をセットとして、何かひとつの効果を期待するものだ。

質疑応答

[永田委員] 習熟度別の取組については実施しているのか。

[山本首席] 1年生の数学と英語では、習熟別・少人数展開を希望制で実施している。ゆっくりと授業を行う講座の方を希望する生徒が多い。2:1の割合。3年生では、選択科目の英語で初級と中級に分けている。中級を希望する生徒が9:1の割合が多い。「苦手科目選択群」の設定は、りけいの生徒に古典の学習機会を保障することを意図している。2年生の理系が文系科目を、文系が理系科目を多く履修する。土曜講習の講座「ふりかえり数学」は効果的だ。

[入江委員]「早朝勉強会」にかかわって、勤務の様態についてはどうか。また、「苦手科目」を選択群に設定した目的は何か。

[秋元教頭]勤務について。全体の取組とはせず、学年独自の取組とした。まずは実績をつくることと考えている。

[山本首席] 2年生で授業について行けなくなる国語と数学を克服するためだ。

[宮坂委員]国語の増単位について。1年からの方がよいのではないか。読解力、とりわけ課題を把握したり、単元の構造を理解したりという読み取る力がない。何が問われているかがわかっていない。公立と私立の枠が外れて、公立がしんどくなっていくだろう。公立高校がしっかりと考えないとだめだ。

[永田委員]企業に置きかえると、上司が何を言っているのかわからないという状況だ。本質、照準の当て方の問題だ。表向きの理解力ではなく、文章の内容に同化したり、読者の気持ちを酌み取る力が必要だ。塾では、国語の問題を解くことをやめた。読解力と照準の当て方、同化能力を鍛えることができるのは「要約」だからだ。

[芝井委員]何が標準かを国や我々は持っていない。世界の国々では決まっている。何が古典なのか、何を知らねばならないかを知っている。高校で何を教えるかをはっきりさせるべきだ。それが子どもをどう育てるかの議論につながるのだ。

小学校の教科書には、文学的なものを載せている。文学作品の一部を切り取って教えている。学年に合わせて薄めている。薄めておきながら、作者の気持ちはどのようなかなどと問うのはおかしいのではない。言葉に関しても世界的には珍しいやり方をしている。ビジネス文書の書き方を教えないのも変だ。文学作品を深く味わいつつ、文章を書くことができる人間、文章をつくることのできる人間を育てねばならない。

[柿原委員]今は情報過多だ。学校教育や家庭教育で、親子の間で話題となるような取組や仕組みをつくっていくべきだ。「何のために」をはっきりさせること、目標へのプロセスをはっきりさせることが大事だ。

3. 委員よりの提言

[入江委員]私学の無償化の影響が読めない。中堅に位置する高校が微妙だと思う。槻の木高校は文武両道で売り、何でもできる子が多い。基礎から応用が単位制の強みだ。

子どものコミュニケーション力、記述力が不足している。「考えて書く」ことが重要であり、今後の中学校での取組とも考える。また、自国の文化を説明できない若者が多い。国際理解教育も重要だ。

[柿原委員]自分の立ち位置を診断していくべきだ。3ヶ月後の目標までのストーリーをつくること。納得して学習させるために学校生活の「健康チェック」が必要だ。

[北浦委員]PTAにおいても、活動の目的と内容の継承が課題だ。子どもと先生だけで

学校は成立しない。PTAも元気にならないとだめだ。

[芝井委員] 単元の意味合いを考える時期だ。「何のために何を」「あなたにとってこういう意味があるんだ」、だから「教える」といメッセージが大事だ。人生の送り方の問題へと通じるものだ。校内に英語エリアつくるなどの取組も有用だ。

[立石委員] 学校の努力がよく伝わってくる。文化祭では、高槻市の市民の会などと結び、地域への発信を考えるべきだ。

[永田委員] 教科指導にスタンダードを持っていない。塾においても課題となっている。大学へのコースを持つことが高校の役割なのか。「学校教育とは」というミッションを立てることが大事だ。公教育に求められていることだ。

[宮坂委員] 槻の木高校の方向性が来年度は問われるだろう。学費の公私の別が無くなった。槻の木高校のアイデンティティ、「どういう生徒、ニーズに対して、こういう教育を提供する」という明確なメッセージが必要だ。大阪の中の「槻の木高校」をはっきりと示さねばならない。これまで多くのことに取り組んできたけれども、公立の枠の中で、目指す学校に達するための取組を精選することだ。戦略を統合していくべきではないか。取捨選択ではなく、各々の意味合いを統合することだ。